

**観点を基に動きを試行することと分析することの往還を通して、
動きを修正していく力を高める授業**

倉嶋 昭久

1 単元名

球技 ネット型 バレーボール (2年)

2 目 標

- ゲームの中でポジショニングという観点を基に動きを試行することと分析することの往還を通して、チームの目的に合ったポジショニングを説明したり、個人の動き方を理解し実行したりすることができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ チームにとって効果的なポジショニングを理解することができる。・ 効果的なポジショニングを意識しながら動くことができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 自分のポジショニングの課題を見つけ、それをチームの仲間に伝え、その解決方法をチームの仲間と検討することができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 一人一人の違いに応じた動きを認めたり、仲間の課題克服のために援助したりしようとする。

4 本単元を学習する意義

本単元では、チームでよりよいプレイをするためのポジショニングを考え、ゲームの中で様々試行し、その動きをポジショニングという観点を基に分析しながら修正していくことに取り組む。

生徒の実態として、1年次のバレーボールの学習では、自分たちのゲーム映像を「準備姿勢をとる動き」「定位置に戻る動き」「個人の技能を活かせるポジショニング」という3観点を基に分析し、チーム練習を行うことで、技能向上を目指した。このことにより、ゲーム中に準備姿勢をきちんととれるようになったり、打った後に定位置に戻ることを意識した動きができるようになったりした。しかしながら、基本的なパス技能が未熟であったこと、自分たちにとってどのようなポジショニングがよいのかが不明確であったことなどから、これらの改善だけでは、「ボールをいかに相手コートに落とすか、自コートに落とされぬか」というバレーボールの楽しさを十分味わうことができなかつた。

ネット型球技の種目は、コート上でネットを挟んで身体や用具を操作し、空いている場所や相手が取れないような返球をすることによって得点を競い合うゲームであり、生徒は「ゲームで勝敗を競い合うこと」に目的の重きを置く。そこで、バレーボールにおいてその目的を達成するためには、個の基本的技能（パス、スパイクなど）とチーム内における一人一人の役割もあるが、とりわけ守備時にチームとして空いたスペースを生まないポジショニングや攻撃時に攻めやすいポジショニングをとるといった仲間との連携を発揮することが必要とされる。ポジ

ショニングをいかに意識してプレイできるかが前述のバレーボールの楽しさを感じる上でも、とても重要となる。

また、スポーツの多様な関わり方の「する、みる、支える、知る」のうち、ポジショニングに着目してスポーツを「観る」ことができるようになると、例えば、サッカーにおいてはボールだけに着目してその現象を捉えるだけでなく、ボールがない時に他の選手がボールから離れるような動きをしてスペースを作りながらパスを受けていることがわかるなど、そのスポーツの楽しみ方の幅が広がったり、奥深さを感じたりすることができる。

生徒は、ポジショニングに着目し、チームで様々なポジショニングを考えてゲームの中で試行し、振り返りながら効果的な動きを見だしていく。この試行と分析を繰り返すことで、目的に合ったポジショニングの考え方を身に付けていく。そして、単元の後半でコート内の人数を1人増やしたり、ポジションが強制的に変わるというローテーションのルールを取り入れたりと条件を変えてゲームを行うことで、生徒はこれまでの学びを再構成し、守備と攻撃の目的に合ったポジショニングの考え方をより強化させていく。このことにより、チームとしてよりよくプレイするためのポジショニングを説明したり、チームで考えたプレイを遂行するための個人の動き方を理解し実行したりするといった資質・能力の高まりを実感するのである。

5 本単元における手だて

＜手だてア＞

人数とボールの条件を変えた2つのゲームを行った後、モデル映像を視聴する活動を組織する。

バレーボールのポジショニングについて、モデル映像からよい動きを見つけ出そうとする態度、よりよいプレイをするにはどのようなポジショニングをとればよいのかという課題を見だし、「問い」を設定する力という資質・能力を発揮させるために行う。

○ 試しゲームⅠ（ネット200cm、バドミントンコート、5対5、レクリエーションボール使用）の活動を組織する。

生徒は、1年次のバレーボールの学習で、ネット、コート、ボールは同じ条件で、4対4のゲームを中心に行った。今回の試しゲームⅠでは、その時よりも人数が1人増え、5対5になることから、ボールがつながりやすくなるを考える。しかしながら、オーバーハンドパスやアンダーハンドパスといった基本的技能が未熟なことから、ラリーがあまり続かない。

○ 条件を変えた試しゲームⅡ（ネット200cm、バドミントンコート、3対3、ソフトバレーボール使用）の活動を組織する。

試しゲームⅠのうち、人数とボールの条件を変えたゲームを組織する。ボールをレクリエーションボールからソフトバレーボールにすることで、ボールが大きくなり、操作も容易になる。このことから、生徒は今の技能でも十分ラリーがしやすくなると思え始める。そこ

で、人数を減らしてゲームを行うことを提案し、実際にゲームを行う。人数が5人から一気に減って3人になることで、守るスペースが広がり、相手からのボールがすぐにコートに落ちてしまうなど、ゲームの難易度が上がり、生徒はどうすればよいのかと課題意識を抱き始める。

【ソフトバレーボール, レクリエーションボール, 4号球バレーボールの材質, 重量, 円周】



【ソフトバレーボール(左), レクリエーションボール(中), 4号球バレーボール(右)】

- ※ ソフトバレーボール
(材質：ゴム, 重量：200～220 g, 円周：77～79 cm)
- ※ レクリエーションバレーボール
(材質：人工皮革, 重量：150～170 g, 円周：62～64 cm)
- ※ バレーボール(4号球)
(材質：人工皮革, 重量：240～260 g, 円周：62～64 cm)

○ ビーチバレーボールのモデル映像を視聴する活動を組織する。

人数が減り、守るスペースが広くなってしまい、どうすればよいのかと課題意識を抱いた生徒に対して、2対2で行うビーチバレーボールの映像を提示する。ここで、どういった観点でモデル映像を観ればいいのかを共有するために、学級全体に対して、「人数が少ないにもかかわらず、なぜボールを落とさずにプレイできるのか」と問い、どんな動きをしているか自由に発言させる。その中で、「2人が前後になるようにしている」や「横並びにならないようにしている」、「空いているスペースに予測して動いている」などといった「ポジショニング」に関する観点を見いださせるように促す。その後、再度モデル映像を視聴し、「ポジショニング」という観点で選手の動きを分析させる。

これらの働き掛けによって、生徒はポジショニングを意識することで、よりうまく守ったり、攻めたりすることができるのではないかという考えを抱き、「ポジショニングを工夫して、ゲームで対戦チームに勝ちたい」という目的意識が醸成され、次の課題を見いだす。

<本單元における課題>

よりうまく守ったり、攻めたりするには、どのようなポジショニングをすればよいのだろうか。

<手だてイ>

「ポジショニング」という観点を基に動きを試行することを考えたり、自分たちの動きを分析し改善策を見いだしたりするチームミーティングの活動を組織する。

自分の課題を明確に見だし、それを解決するために思考し、様々な動き方を試行する力という資質・能力を発揮させるために行う。

本單元では、練習や通常ゲームの前後にチームミーティングの時間を設定する。ゲーム前には、どのようなポジショニングを試すのか、ゲーム後には、自分や自チームの動き方がどうだ

ったのかを「ポジショニング」という観点を基に分析させる。このゲーム後のチームミーティングをしやすいするため、かつ、客観的に自分たちの動きを振り返られるようにするために、タブレットを使用してゲームの様子を撮影させる。そして、チームミーティング後、その分析したことを踏まえ、どのようなポジショニングにすればもっとボールを拾いやすくなるのか、攻撃をしやすいするためにはどのようなポジショニングをしなければいけないのかなど、改善策をチームで見いだしていく。そして、次のゲームではどのようなポジショニングを試していくのか、チームの目的を達成するために個人としてどのように動いていけばよいのかなどを考え、次のゲームを展開していく。

この働き掛けによって、生徒は自分の動きを客観視し、観点を基に動きを分析することで自分の課題を明確にもつことができるようになる。さらには、動きを修正し、よりよいプレイをしようと様々試行することができるようになる。

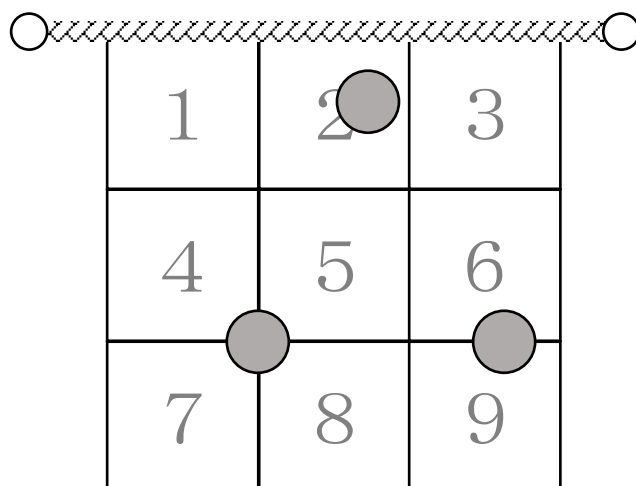
<手だてウ>

9分割したコートを整備し、さらに「9分割シート」を提示しながら、チームミーティングの環境を整備する。

様々な動きを想像しながら身体をコントロールする力という資質・能力を発揮させるために行う。

本単元では、ラインテープを貼って、バドミントンコートを下図のように9分割したコートでゲームを行う。そして、チームミーティングの際、コートを9分割した「9分割シート」を提示する。このシートは、動き方などを実際に書き込んだり消したりできるようにラミネート加工を施す。このシートを作戦盤に貼って活用することで、コートを真上から俯瞰しながらマグネットで自分のポジショニングを確かめたり、そのマグネットを動かしながら自分の動き方を確かめたりすることができる。

この働き掛けにより、生徒は自分の動き方をイメージしやすくなり、より自分の動き方を明確にすることができるようになる。



<手だてエ>

人数の条件を変えたゲームとローテーションルールを加えたゲームの活動を組織する。

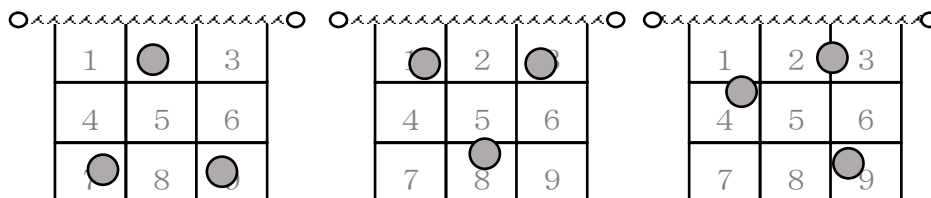
条件が変わった中で、動き方を順応させていく力という資質・能力を発揮させるために行う。

単元の後半でコート内の人数を1人増やし、条件を変えてゲームを行う活動を組織する。3人ではポジションのバリエーションも多くないが、4人にすることでバリエーションが増える。さらには、ローテーションのルールを追加し、強制的にポジションを変更せざるを得ない状況を設定する。そうすることで、生徒はこれまでの学びを活かし、守備と攻撃におけるチームの目的に合ったポジショニングを様々考えたり、チームメンバーそれぞれの特徴を生かせる動き方などを考えたりしながら試行していく。そして、自分たちの手でそのポジショニングの有効性を検証しながら、よりよいプレイができるように動き方を修正していくようになる。

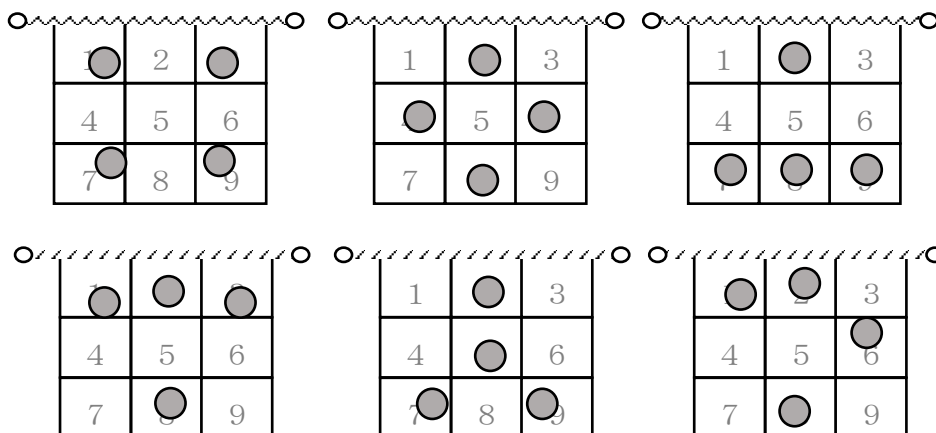
この働き掛けにより、生徒は人数に応じてではなく、目的に合わせたポジショニングを考えることができるようになる。単元前半では、なんとなくポジショニングをとっていた生徒も、単元終末にはチームとしてよりよく動くためのポジショニングを説明したり、チームで考えた動き方を遂行するための個人の動き方を理解し実行したりすることができるようになる。この姿こそ、資質・能力が高まった姿そのものと捉える。

○ポジションの配置例

【3人の場合】



【4人の場合】



<参考・引用文献>

今関豊一 2018 『平成 29 年改訂 中学校教育課程実践講座 保健体育』 ぎょうせい

6 本単元における構想 (全12時間 本時10/12時間目)

目的意識	生徒の意識	学習活動・学習内容	教師の支援・指導	評価の観点 評価の方法
ポジショニングを工夫して、ゲームで対戦チームに勝ちたい	膝は柔らかくしななかったな 前よりもボールがつかがり面白いな 人数が減って、またできなくなったしまったな どうすればいいのだろう 相手のボールを拾うには、どういったポジショニングをすればいいのかな ポジショニングを意識してプレイをしたり、観たりしてみよう 攻撃の時、守備の時でどういったポジショニングをすればいいのか、だんだんわかってきたぞ ラリーが続くと、ポジショニングが難しくなってくるんだな ラリー中でもポジショニングを意識することができようになってきたぞ 人数が一人増えたから、いろいろなポジショニングを試してみよう ローテーションがあるから個人に合ったポジショニングを考えよう これまでの練習ゲームの成果を出すぞ	① ボール慣れの活動、バスの練習 ○ ボールを使った体ほぐしの運動を行うとともに、オーバーストップパス、アンダーハンドパスの練習を行う。 ② 試しゲームⅠ(レクリエーションボール、5対5) ○ 今現在の技能でゲームを行う。 ③ 試しゲームⅡ(ソフトバレーボール、3対3) ○ 条件が変化した中でゲームを行う。ゲームの後、動き方の振り返りを行う。 ④ ビーチバレーボールのモデル映像を視聴する活動 ○ 学級全体で選手の動きを分析する観点を考える。 ○ 個人で「ポジショニング」の観点を基に選手の動きを分析し、その結果を学級全体で共有する。 【本単元における課題】 よりうまく守ったり、攻めたりするには、どのようなポジショニングをすればよいのだろうか。 ⑤ 再度、試しゲームⅡを行い、自分たちの動きの確認をする活動 ○ 試しゲームⅡと同じ条件でゲームを行う。その際に、タブレットでゲームの様子を撮影する。 ○ 「ポジショニング」の観点を基に、自分たちの動きを分析する。 ⑥ 練習ゲームⅠ(1ターンゲーム：ソフトバレーボール、3対3)を行い、動きを分析する活動 ○ 事前にチームでどういったポジショニングでゲームを行うのか考える。 ○ ゲームの様子をタブレットで撮影し、自分たちのポジショニングを振り返る活動を行う。 【ルールの説明】 ・サーブ(投げ入れ)→攻撃→守備の1ターンで終了 ・5回行ったら攻守交代して得点を競う ・ネット、アウト⇒守備チーム1点 ・守備チームがボールを落とさず、2打目キャッチ⇒守備チーム1点 ・守備側コートにボールが落ちる⇒攻撃チーム1点 ・守備チームが2打目キャッチできない⇒攻撃チーム1点 ⑦ ポジション別の動きを練習する活動 ○ レシーブ練習、トス練習、スパイク練習を行い、ポジション別の動き方を練習する。その中で、自分の動き方のよさや課題などを認識する。 ⑧ 練習ゲームⅡ(キャッチゲーム：ソフトバレーボール、3対3)を行い、動きを分析する活動 ○ チームミーティング①(ポジショニングの決定)→ゲーム(ポジショニングの試行)→チームミーティング②(振り返り)の流れで行う。 【ルールの説明】 ・必ず3打で、違う3人で返球する ・サーブ(投げ入れ)でスタートし、落ちるまで続ける ・守備チームは2打目をキャッチしてもよい ・キャッチ後、移動禁止。3秒以内でボールを離す ⑨ 通常ゲームⅠ(ソフトバレーボール、3対3)を行い、動きを分析する活動 ○ チームミーティング①→ゲーム→チームミーティング②の流れで行う。 ⑩ 通常ゲームⅡ(ソフトバレーボール、4対4)を行い、動きを分析する活動 ○ チームミーティング①→ゲーム→チームミーティング②の流れで行う。 ⑪ 通常ゲームⅢ(ソフトバレーボール、4対4、ローテーションあり)を行い、動きを分析する活動 ○ ローテーションルールの説明を聞く。 ○ チームミーティング①→ゲーム(ローテーションあり)→チームミーティング②の流れで行う。 ⑫ リーグ戦(ソフトバレーボール、4対4、ローテーションあり) ○ 高まった技能や得た知識を活かして、1試合5分間のゲームを行う。	○ 昨年度の学習を想起させ、ポイントを確認しながら、バスの練習をさせる。 ○ 今現在の技能を活かしてゲームを行う環境を整備する。 ○ 人数とボールの条件を変え、ゲームを展開する。 発問： ゲームでうまくいったこと、うまくいかなかったことはどんなことですか。 発問： 人数が少ないにもかかわらず、なぜこんなにボールを落とさずに動くことができるのでしょうか？ 指示： 2人の選手がどういった動き方をしているか、分析しなさい。 ○ 生徒とやり取りしながら、様々な観点を考えさせ、その中で「ポジショニング」の観点の獲得を促す。 ○ 「ポジショニング」を意識することで、よりうまく守ったり、攻めたりすることができることを全体で共有させる。 指示： ゲームをタブレットで撮影し、「ポジショニング」という観点で自分たちの動き方を分析しなさい。その後、チーム内で各個人の課題を伝えなさい。 ○ うまく攻撃できた時、うまく守備できた時、自分(たち)はどういったポジショニングをしていたのかを分析させる。 ○ うまく攻撃できなかった時、うまく守備できなかった時、自分(たち)はどういったポジショニングをしていたのかを分析させ、課題を明確にさせる。 指示： どういったポジショニングを試すのかチームで検討しなさい。 ○ 9分割シートを使い、自分がどういったポジショニングをすればよいかを確認させる。 指示： ゲームをタブレットで撮影し、「ポジショニング」という観点で自分たちの動き方を分析しなさい。 ○ 決めたポジショニングがどうだったのか分析する活動を組織する。 ○ ポジション別練習を通して、自分の動き方のよさや課題、ポジションごとの動きやすさなど、自分の動き方についてをワークシートにまとめさせる。 ○ どういったポジショニングを試行するのかをチームで確認させる。 ○ ゲームをタブレットで撮影させ、観点を基に動きを分析させ、条件が変わった中で自分たちの課題に対しての進捗状況を確認させる。 ○ 自分たちに合ったポジショニングを明確にできるように促す。 ○ どういったポジショニングを行うのかをチームで確認させる。 ○ ゲームをタブレットで撮影させ、観点を基に動きを分析させる。 発問： よりよい動き方をするために、自分がどういったポジショニングをとればよいか、チームミーティングで確認しなさい。 ○ 人数が一人増えることで、ポジショニングや攻撃の仕方のバリエーションが増えることを確認する。 ○ ゲームをタブレットで撮影させ、観点を基に動きを分析させる。	【学】 観察 【学】 観察 【思・判・表】 観察・ワークシート 【学】 観察 【思・判・表】 観察・ワークシート 【知・技】 観察・ワークシート 【思・判・表】 観察・ワークシート 【学】 観察 【知・技】 観察・ワークシート 【思・判・表】 観察・ワークシート 【思・判・表】 観察・ワークシート 【知・技】 観察・ワークシート

7 本時の詳細

(1) 前時までの学習を終えた生徒の実態

- よりうまく守ったり，攻めたりするには，ポジショニングを工夫すればよい（セッターはネットの近くにポジショニングするようにする。スパイクはネット近くで打てると決まりやすいから，トスはネットの近くに上げるようにする。セッターとアタッカーは遠ざけるとトスを上げるのが難しいから，離れすぎないようにするなど）ということを見いだしている。（学習活動④，⑦）
- レシーブ練習，トス練習，スパイク練習を帯の活動で行ったり，3対3のゲームを行ったりする中で，技能を身に付けようとしているが，あまり技能は高くない。（学習活動③～⑨）
- ゲームをタブレット端末で撮影し，「ポジショニング」の観点で動き方を分析することができる。（学習活動⑤，⑥，⑧，⑨，⑩）
- 3対3から4対4になり，人数が一人増えることで，ポジショニングや攻撃の仕方のバリエーションが増えることを理解しており，実際に様々なポジショニングをゲームで試行している。（学習活動⑩）
- 自分の得意な動きや不得意な動きなど，自分の特徴をワークシートにまとめている。（学習活動⑦，⑧，⑨，⑩）
- ローテーションの仕方を理解している。（学習活動⑪）

(2) 本時のねらい

ローテーションルールが加わったゲームの活動で，ポジショニングという観点で動きを試行し，分析することを通して，目的に合わせたポジショニングを見いだすことができる。

(3) 評価基準

○ 評価の観点—思考・判断・表現

A	B
ローテーションルールが加わったゲームの活動で，ポジショニングという観点で動きを試行し，分析することを通して，チームの攻撃や守備の目的と個に応じた役割や特徴（得意な動きや不得意な動きなど）とを関連付けて，よりよいポジショニングについて説明することができる。	ローテーションルールが加わったゲームの活動で，ポジショニングという観点で動きを試行し，分析することを通して，チームの攻撃や守備の目的を達成する，よりよいポジショニングについて説明することができる。

(4) 本時の展開

学習活動・予想される生徒の反応	教師の支援・指導 ■ 評価の観点・方法
① 基本的技能を練習する活動 ○ チームでレシーブ練習，トス練習，スパイク練習から選択して行う。	○ 準備運動を終えたチームから基本的技能練習を行わせる。

② どのようなポジショニングでゲームを行うかをチームで考える活動

- ローテーションルールがある中で、よりよい動きをするためのポジショニングを考え、ワークシートにまとめる。

<発問>

ローテーションルールがある中で、よりよい動き方をするためには、自分がどういったポジショニングをとればよいか、チームミーティングで確認しなさい。

- ワークシートにどのようなポジショニングをとるのかを記入させる。
- 9分割シートを使いながら、一人一人の動き方を明確にさせる。
- 「チームメンバーの特徴を知ろう」のワークシートを参考にさせる。

【再構成している生徒の具体】

真ん中を空けると、そこに誰が行けばいいかわからなくなるから、とりあえず「ひし形」でやってみようよ。

Aさんはトスが得意、でもレシーブが苦手だから、Aさんは前の方のポジションがいいよね。

Bさんは、レシーブが得意だから、後ろの方で後ろのボールをすべて拾ってくれる？

Cさんは、スパイクを強く打てるから「4」あたりがいいかな。

Dさんも、トスが上手いから、なるべく2打目で触れるとよくない？

Eさんは、レシーブが得意だよ。

これでローテーションしたときには、レシーブが得意なBさんとEさんがいるから、後ろ2人、前2人でよくない？

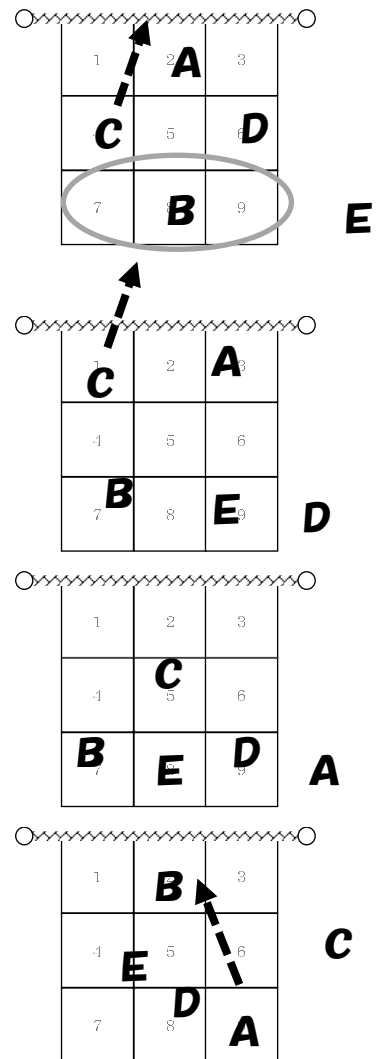
それでAさんがトスして、Cさんがスパイクに行く三段攻撃ができるといいよね。

このローテーションだとうまくトスをあげられないかもしれないね。

あまり攻撃できないかもしれないから、ボールをとにかく拾って返せるようにしよう。だから、Cさんだけを前に残して後ろに3人配置してみよう。

Aさん：私はとにかくレシーブが苦手だから、このローテーションの時は、私以外の人が1打目を打って欲しいな。2打目は私がトスを上げられるように、ネット近くに移動するね。

でも、誰が打つの？うまく打てそうだったら、BさんかEさんが打って。打てそうじゃなかったら、相手にとりあえず返せるようにしよう。



③ チームで考えたポジショニングをゲームで試行する活動 I (10 分間)

- チームで考えたポジショニングをゲームの中で試行させる。

- 2分ごとにポジションをローテーションしながらゲームを行う。
- 相手チームにどこに投げ入れて欲しいかを伝えてから、ゲームをスタートする。
- ゲームはタブレットで撮影する。

④ ゲーム映像を基に動き方を分析し、どのように修正するかを考える活動

- 自分たちで特にうまくいっていないパターンを1つだけ選択して分析する。
- タブレットで撮影したゲーム映像を「ポジショニング」という観点で分析し、9分割シートを使いながら、どのように動き方を修正していけばよいかをチームで見だし、ワークシートにまとめる。

⑤ チームで考えたポジショニングをゲームで試行する活動Ⅱ(3分間)

- チームミーティングで選択したうまくいっていないパターンのポジショニングでゲームを行う。
- ゲームはタブレットで撮影する。

⑥ 学びシートに授業の振り返りを記入する活動

- 2分ごとに合図を出し、ローテーションさせる。
- 前衛の選手にビブスを着用させる。
- タブレットでゲームの様子を撮影させる。

<発問>

ポジショニングを観点として、自分たちの動き方を分析し、さらによりよい動き方にするには、ポジショニングをどのように修正すればよいのか、ワークシートにまとめなさい。

- うまくいっていないパターンを1つだけ選択させて分析を行わせる。
- チームミーティングで修正したポジショニングをゲームの中で試行させる。
- タブレットでゲームの様子を撮影させる。
- 学びシートに授業の振り返りを記入させる。

バレーボールワークシート①

2年 組 番 氏名 _____

1. 試しゲームⅡ（ソフトバレーボール・3対3）を終えて、うまくいったこと、うまくいかなかったことを振り返ってみよう。

個人として	チームとして
○うまくいったこと	○うまくいったこと
△うまくいかなかったこと	△うまくいかなかったこと

2. 試しゲームⅠ（レクリエーションボール・5対5）と試しゲームⅡ（ソフトバレーボール・3対3）を比較すると動き方に違いはあったかな？

バレーボールワークシート② (ワークシート①より抜粋)

2年 組 番 氏名

前時の終わりに記入したワークシートの内容をまとめました。同じような意見はまとめてあります。

<試しゲームIIを終えて、うまくいったこと、うまくいかなかったことのまとめ>

個人として	チームとして
<p>○うまくいったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールに触れた。 ・ボールの落下点に入る。 ・アンダーハンドパスで相手コートにボールをいれることができた。 ・準備姿勢を意識できた。 ・ボールをつなげるために素早く動くことができた。 ・高く上げる。 	<p>○うまくいったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声掛けがきちんと出来ていた。 ・メンバーのポジションを決めて、どこにボールが来ても対応できるようにした。 ・だいたい役割分担がされていた。 ・チーム内でパスができたこと。 ・ワンバウンドでパスすることで落ち着いてパス回しが出来た。 ・場所がばらけていて、みんなが働けた。 ・みんながボールに触ってゲームが出来た。 ・人数が少ないため全員がボールに触れた。 ・味方チームに点が入ったとき、拍手できた。 ・誰にパスするのか言ってからパスしていたため、つなげることが出来た。
<p>△うまくいかなかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変な方向にボールが飛んでいってしまった。 ・全然ボールをコントロールできなかった。 ・正しい手の形でボールを返すことが出来なかった。 ・オーバーハンドパスが出来なかった。 ・オーバーハンドをうまく利用できなかった。 ・アンダーハンドパスでネットやネットの下にいったってしまった。 ・アンダーハンドを失敗すると、変な方向に行ってしまう。 ・サーブが思ったより距離が伸びない。 ・パスを受けたりつなげられなかった。 ・ボールを味方のとりやすい所に打てなかった。 	<p>△うまくいかなかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変なところにボールが飛んでいってしまうことが多かった。 ・すぐに相手コートへ返そうとしてしまっていて連携できていなかった。 ・パスをつなげなかった。 ・人数が少なかったためコート内に空白ができ、パスがつながりにくかった。 ・ボールに追いつけていなかった。 ・誰がとるのが分らず、ボールをとれない。 ・2人の間にボールが来たとき、譲ってどちらもとれなかった。 ・動かない人がいるとパスができなくなる。

<試しゲームIと試しゲームIIの比較のまとめ>

<p>○動いていない人が誰もいなくなった。</p> <p>○戦略が組みやすくなった。</p> <p>○人が少なくなった分、動ける範囲が広くなり、たくさん動くことが出来た。</p> <p>○人数が少なくなり、パスが回りやすかった。</p> <p>○人数が少なくなったことにより、一人一人のスペースが増え、ボールをとりに行きやすくなった。その結果、コートを広く使った動きができ、パスをつなげられるようになった。</p>

- 相手の人数も少ないので、空いているところが増え、狙いやすくなった。
- 声を掛け合い、誰が触るかをチームとして確認する場面が多くなった。
- ▲○ゲームⅠに比べ、ゲームⅡになって走る距離が少し増えてボールの飛ばす方向を考える暇がなかった。その一方、声が通りやすくなり「そこに行って！」と言うと、複数の人が反応するということがなくなった。
- ▲5vs5よりも動く回数が多くなった。
- ▲コート内に3人の方が空白のスペースが多くある。パスをするとき、空白が多くあると飛んできたボールに追いつかなく受けにくく、またパスができて空白が多いため、人の居ないところにボールが行くことも多々あった。
- ▲動く範囲が広くなり、守備範囲も広くなった。
- ▲動く範囲が増えたため、難しくなった。
- ▲3人しか居なかったため、一人一人が守るスペースが広くなった。ⅠよりⅡの方がきつかった。
- ▲人数が減り、すき間が増えたので、動く量が5人の時よりも増えた。
- ▲ゲームⅡの方がより多く動いた。
 - そのため自分のポジションの役割をしっかりと果たせていない部分が出てきた。
- ▲ボールに追いつけないときがあった。
- ▲自分で広い範囲のボールをとらなければいけなかった。
- ▲ゲームⅡでは、人数が少なくなったため、誰がボールをとるかなど、ポジションがよく分かっていなかった。
- ▲ゲームⅠの時は、どこに打っても味方がいて、カバーの範囲が狭かったけど、ゲームⅡは狙わないと味方がいないし、カバーの範囲が広がった。
- ▲休む暇がないため、ボールをよく見ていないととれない。
- ▲ポジションがなかったので誰が打つかがよくわからなかった。
- ▲ゲームⅡの方がコート内の空いているスペースが多いため、自分が触ればいいのか、他の人が触ればいいのか迷ってしまう。
- ▲人数が少ないとパスをコントロールしないと拾えないから、練習も必要だと思った。
- ▲人数が減り、緊張感が増した。
- ▲腰を落としたりしなくても簡単にボールが相手コートに入ったため、腕だけでボールを打っていた。
 - ・メンバーが替わると役割の変更が必要となる。
 - ・人数が少なくなったので、ボールに合わせて動く必要があった。

バレーボールワークシート③

2年 組 番 氏名 _____

1. ビーチバレーボールの映像を観て、気が付いたことをまとめよう。

--

2. **自分**の動き方を観点（ ）をもとに分析してみよう。

○チームとしてうまく攻撃できたとき	○チームとしてうまく守備できたとき
△チームとしてうまく攻撃できなかったとき	△チームとしてうまく守備できなかったとき

3. 今日の学習を通して感じたことや考えたことをまとめてみよう。

--

バレーボールワークシート④

2年 組 番 氏名 _____

1. 1ターンゲームでの自分の動き方をポジショニングという観点をもとに分析してみよう。

○チームとしてうまく攻撃できたとき	○チームとしてうまく守備できたとき
△チームとしてうまく攻撃できなかったとき	△チームとしてうまく守備できなかったとき

2. ポジション別練習を通して、自分の動き方を振り返ってみよう。

ポジション (練習)	自己評価 ※あてはまるものに○	評価の根拠								
レシーバー (レシーブ練習)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>よくできた</td> <td></td> <td></td> <td>できなかった</td> </tr> </table>	4	3	2	1	よくできた			できなかった	
4	3	2	1							
よくできた			できなかった							
セッター (トス練習)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>よくできた</td> <td></td> <td></td> <td>できなかった</td> </tr> </table>	4	3	2	1	よくできた			できなかった	
4	3	2	1							
よくできた			できなかった							
アタッカー (スパイク練習)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>よくできた</td> <td></td> <td></td> <td>できなかった</td> </tr> </table>	4	3	2	1	よくできた			できなかった	
4	3	2	1							
よくできた			できなかった							

バレーボールワークシート⑤

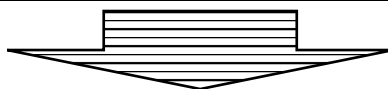
2年 組 番 氏名 _____

1. ポジション別練習を通して、自分の動き方を振り返ってみよう。

ポジション (練習)	自己評価 ※あてはまるものに○	評価の根拠								
レシーバー (レシーブ練習)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>よくできた</td> <td></td> <td></td> <td>できなかった</td> </tr> </table>	4	3	2	1	よくできた			できなかった	
4	3	2	1							
よくできた			できなかった							
セッター (トス練習)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>よくできた</td> <td></td> <td></td> <td>できなかった</td> </tr> </table>	4	3	2	1	よくできた			できなかった	
4	3	2	1							
よくできた			できなかった							
アタッカー (スパイク練習)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>よくできた</td> <td></td> <td></td> <td>できなかった</td> </tr> </table>	4	3	2	1	よくできた			できなかった	
4	3	2	1							
よくできた			できなかった							

2. キャッチバレーゲームでの自分の動き方を**ポジショニング**という観点をもとに分析してみよう。

【分析結果】※それぞれの課題を中心に



私の修正ポイントはここだ！！

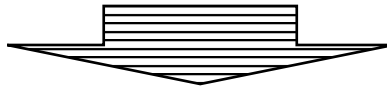
バレーボールワークシート⑥

2年 組 番 氏名 _____

チームが4人になり、ボールがつながりやすくなった！など、4対4になり、動き方も変わってきたようです。ここで再度、ゲーム映像を撮影し、分析してみよう！

- 4対4のゲームでの自分の動き方を**ポジショニング**という観点をもとに分析してみよう。

【分析結果】



私のポジショニングの修正ポイントはここだ！！



バレーボール 学びシート

2年 組 番 氏名 _____

日付	学習内容・活動	感じたことや反省 (動きのポイントなど)
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		

私たちのポジショニングはこれだ！

3vs3ver.

2年 組 班

【メンバー】

A:

B:

C:

D:

E:

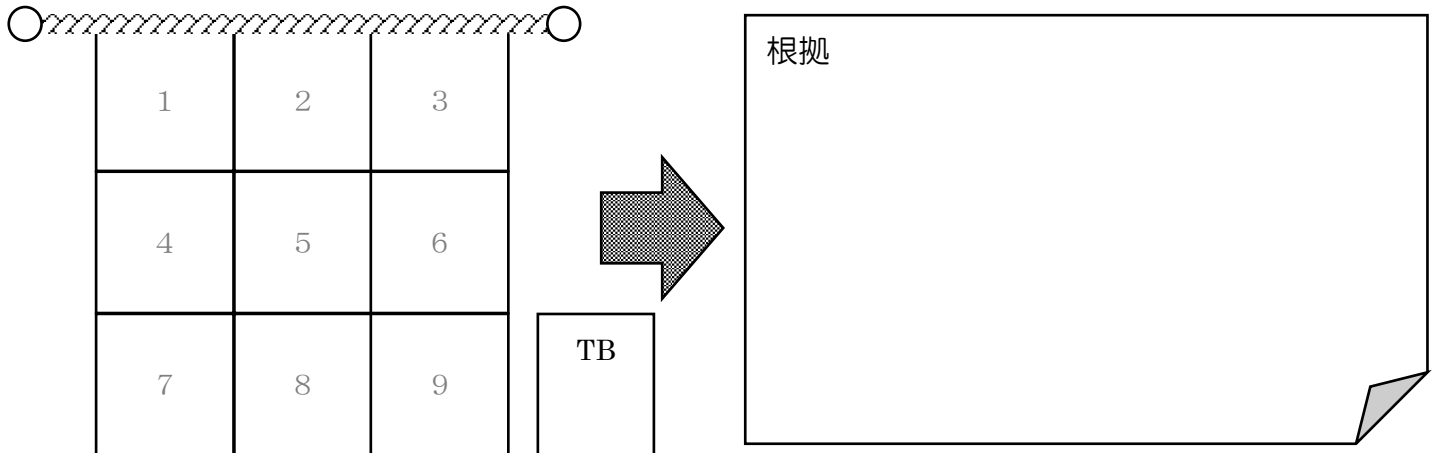
【パターン1】 《 攻撃重視型 ・ 守備重視型 ・ バランス重視型 》

○ ○

1	2	3
4	5	6
7	8	9

TB

根拠



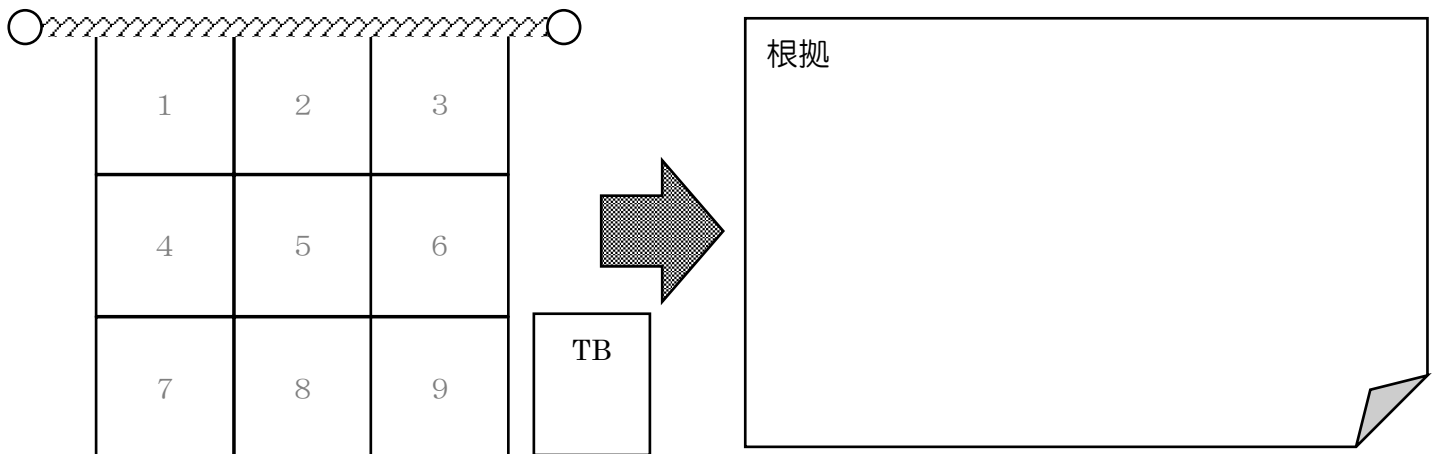
【パターン2】 《 攻撃重視型 ・ 守備重視型 ・ バランス重視型 》

○ ○

1	2	3
4	5	6
7	8	9

TB

根拠



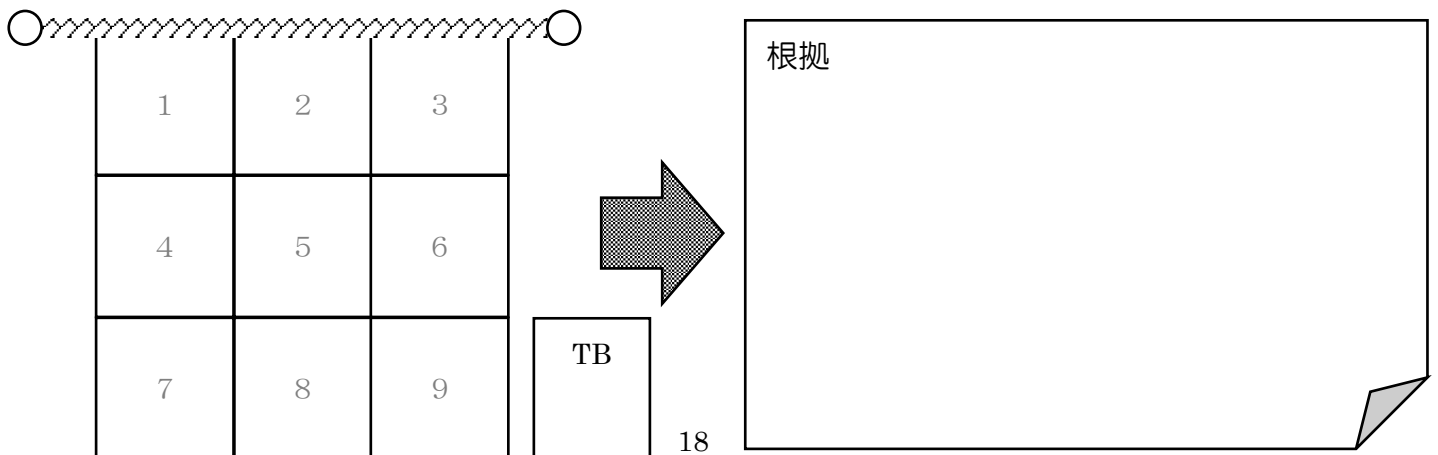
【パターン3】 《 攻撃重視型 ・ 守備重視型 ・ バランス重視型 》

○ ○

1	2	3
4	5	6
7	8	9

TB

根拠



【パターン4】 《 攻撃重視型 ・ 守備重視型 ・ バランス重視型 》

○ / ○

1	2	3
4	5	6
7	8	9

TB

根拠

【パターン5】 《 攻撃重視型 ・ 守備重視型 ・ バランス重視型 》

○ / ○

1	2	3
4	5	6
7	8	9

TB

根拠

【パターン6】 《 攻撃重視型 ・ 守備重視型 ・ バランス重視型 》

○ / ○

1	2	3
4	5	6
7	8	9

TB

根拠

【パターン7】 《 攻撃重視型 ・ 守備重視型 ・ バランス重視型 》

○ / ○

1	2	3
4	5	6
7	8	9

TB

19

根拠

私たちのポジショニングはこれだ！

2年 組 班

【メンバー】		
A :	B :	C :
D :	E :	

【パターン1】 攻撃型・守備型・バランス型

【パターン1】修正バージョン

【パターン2】 攻撃型・守備型・バランス型

【パターン2】修正バージョン

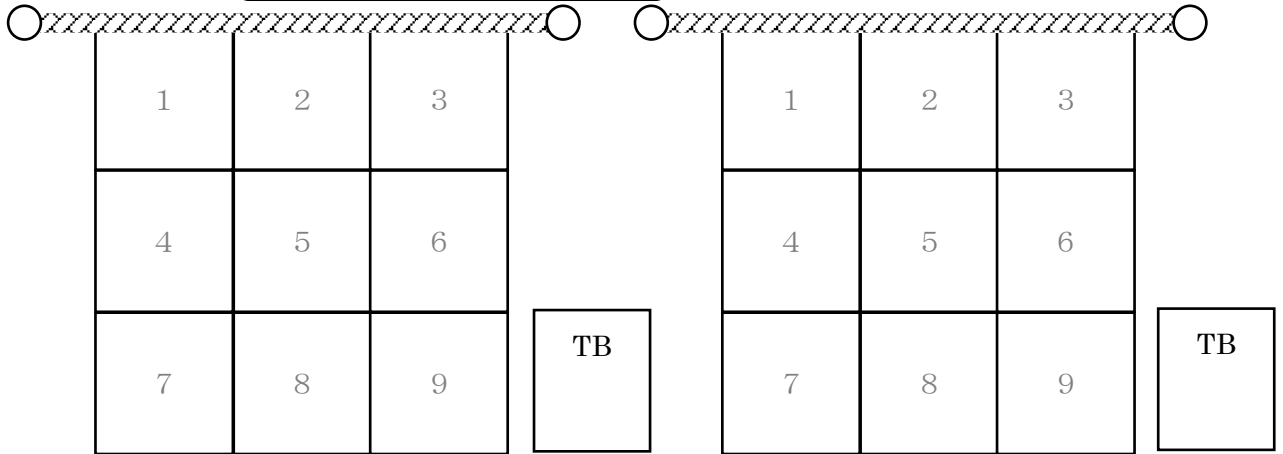
【パターン3】 攻撃型・守備型・バランス型

【パターン3】修正バージョン

【パターン4】

攻撃型・守備型・バランス型

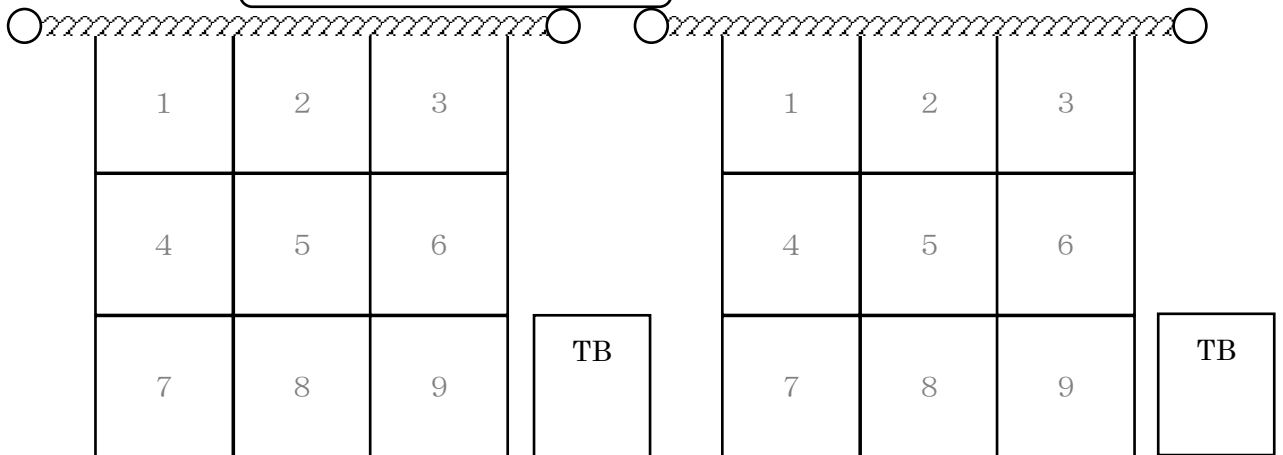
【パターン4】修正バージョン



【パターン5】

攻撃型・守備型・バランス型

【パターン5】修正バージョン



私たちはここを修正すればもっとよくなる！！

修正する動き方など



根拠



チームメンバーの特徴を知ろう

2年 組 班

◎これまでの練習でわかってきた、一人一人の特徴をみんなでもとめて、ポジショニングにつなげよう！

名 前		
さん		
さん		
さん		
さん		
さん		

- (例)・Aさん：アンダーハンドパスがとても上手で、レシーブはほぼとれている
・Bさん：オーバーハンドパスが上手だから、セッターを任せる
・Cさん：左側のポジショニングの時、レシーブミスが多くなってしまう

これまでの自己評価の他に、試合中の動きなどを見て、チーム内で他者評価をしよう！